

# オリーブの会通信

2011年7月9日

発行：特定非営利活動法人KHJ香川県オリーブの会  
〒760-0078 高松市今里町一丁目499-2  
連絡先 TEL/FAX 087-843-9877(川井)  
[http://khj\\_olive.com/](http://khj_olive.com/)



## 第109回月例会ご案内

日 時	2011年7月24日(日) 13:00~受付 13:30~16:30
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階 会議室 高松市番町1-10-35 Tel 087-835-3334
内 容	13:30~ 開会 13:40~15:00 一部 ビデオ学習(第6回全代研 東京大会基調講演) 精神科医: 齊藤 万比古(予定) 15:15~16:30 二部 グループ別話し合い ご家族でご参加ください。
参 加 費	・会員 1家族 1000円 ・非会員 1家族 1500円

毎日蒸し暑い日が続いていますが会員の皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。

さて、去る6月26日、当オリーブの会法人化3周年記念講演会は、多数のご参加を得て成功裏に終わることが出来ました。これも皆様方のおかげであり、心より深く感謝申し上げます。本当に有難うございました。

特に、今回は、池田佳世代表からは「引きこもり者に対する接し方」について、自らの体験を踏まえながらお話がありました。その中で、引きこもり当事者を回復させるには、「親が必死になり、将来、生きていて良かったと思えるように勉強して欲しい」とのことでした。

また、境泉洋先生からは、長年の引きこもりについての研究結果を踏まえ、「家族支援の必要性と国の引きこもり支援をうまく使うこと」というお話がありました。

このような学びを得ながら、オリーブの会の目的が果たせれば思っています。

## 【法人化3周年記念講演会（6/26）の報告】（概略）

- 1 **と き** 平成23年6月26日（日）  
午後1時30分から同4時30分まで
- 2 **と ころ** 高松市番町一丁目10-35  
香川県社会福祉総合センター7階中会議室
- 3 **参加者** 63名



### 4 概 要

#### （1）川井理事長挨拶

記念講演会に議員の先生方はじめ関係機関の方々に多数ご参加をいただき、感謝しています。

初めて参加された親御さんは、世間体を気にしながらもここに一步を踏み出された今日からが始まりである。

今回は、KHJの奥山代表（故人）の後継者となられ、全国の親の会をまとめる大役を引き受けられた池田代表と、8年継続して引きこもり実態調査を行い引きこもり支援のあり方を研究されている、徳島大学大学院 境准教授からお話をいただく。

引きこもり地域支援センターが県精神保健福祉センターに設置、6月20日に開設され、そこから適切なネットワークの支援機関等に繋がることになる。引きこもり対応は家族だけでは出来ないため、県や関係機関の支援をいただきながら、一步でも前進することを願っている。

3.11の東日本大震災で被災された親の会の方々への募金にご協力をお願いします。

## (2) 来賓挨拶

### ア **香川県健康福祉部障害福祉課長（代理：神内課長補佐）**

本県は、引きこもりの相談を県精神保健福祉センターや各保健所を中心に対応してきたが、6月20日には、当事者、家族の第一次相談窓口の中核としてまた様々な支援を行う中核となる機関として「引きこもり地域支援センター」を県精神保健福祉センター内に開設した。

開設後、報道機関などから多くの問い合わせや取材があり、引きこもりについての県民の関心が高いことが窺えた。

センターでは、2名のコーディネーター、専用電話、面接、メール相談、各保健所と連携して、家庭訪問、居場所の提供、情報提供、ご家族を中心としたグループワークの支援、更には、支援に従事する者への研修会も順次開催する予定としている。

引きこもり地域支援センターが開設されたタイミングで記念講演会が開催されることは意義深いものがある。講演会が実り多い成果を上げられることを期待している。

### イ **参議院議員山本博司氏（代理：秘書 代読）**

県に「引きこもり地域支援センター」が設置された。これは、国会において、平成19年12月、同20年11月、同22年6月に実態把握と共に総合的な政府一体となった対策の確立の必要性を何度も訴え続けた結果が実ったものである。

今、政治情勢は混迷して国民の政治不信も絶頂に達しているが、震災の復興支援が不可欠である。今こそ政治家がどうすれば国が良くなるのかを真剣に学び、考え、行動していくことが最も大事な時である。

制度の狭間で苦しんでいるひきこもりの方々のご家族と共に、今後とも引き続き引きこもり支援に取り組んでまいります。

### ウ **高松市議会議員（岡野朱里子氏）**

引きこもりは、個人の問題ではなく社会の問題として奥山代表〔故人〕と共に動き、少しずつ進展を見せていると思う。

私は27歳のとき「誰かの役に立ちたい」と思い、2000年に桜井充参議院議員の秘書となった。ひきこもり生活の時、唯一の支えだったのは両親が元気な笑顔でいてくれることだったので、家庭の中では笑顔でいることとしている。

また、摂食障がいの女性が動けなくなり無念の死を遂げたと聞き、これからは一人でもそういう思いをしないよう、市としてもネットワークの一部としてしっかりと役割を果たしていきたい。また不登校から引きこもりへ続かないよう、切れ目のない支援を取れるよう体制を作って行きたい。

### (3) 来賓紹介(行政機関)

行政機関の出席者(12名)については、時間の都合で、お名前のご紹介のみとさせていただきます。

### (4) 講演会〔一部〕

#### 演題「引きこもり者に対する接し方」について

講師：NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会代表 池田佳世氏

#### ア はじめに

私は、奥山代表(故人)からの遺言を受けてKHJの代表を引き継いだ。今、全国にKHJの支部〔家族会〕が42ある。これらは奥山前代表が作ってきたもの。奥山全代表はリーダーシップの強い人でしたが、私はリーダーシップは強くなく仲良くはやれると思っている。42支部をまとめ、ご意見を入れながら皆さんが本部の運営委員会の事業を引き継いでいきます。

#### イ 経歴

私は、主婦から始まり、1969年不登校の無い時代に家族でアメリカに渡り4年後に帰国した。その後、大学時代の心理学を生かし、カウンセラーの勉強をした。そのおかげで、子供がいじめに会ったときは、母親として必死の思いで取り組み、それを乗り越えられた。

#### ウ 引きこもりからの回(快)復

##### 親の必死な動き

親が必死に動くことは子供を救うことだ。助けたいと思う気持ちで1回目は保健所、2回目は精神科(本人が来ないとため)、3回目は親の会にでかけた。何がこの子は出来るのか、出来たことを褒めてやる。私の息子は今、脳外科医をしている。引きこもりには早期発見、早期対応が大事である。

長期化した引きこもりは、障がいの中に入れて国に援助をしていただく。

回復のためには、就労支援、居場所設置、就職先(引きこもりに理解のある会社)を訪問などが必要である。

引きこもりの長期化は体調が悪くなり、慢性疲労症候群が出て、社会不安症となる。この場合、親の接し方を変える必要がある。

関東ブロックでは、2週間に1回キャッチする。質問攻めにすると再び来ない。これは居場所にいる人の問題でもある。

2年前から、ひきこもりの人たちを支援しようと行政機関も動き出

したので、期待をしている。

子供は親の言うことを良く見ている。  
親の子供に対する態度が非常に大事である。  
父親は、子供に下からの目線で「よく出来ている」というだけでいい。



学校教育は、メンタルヘルスを考えていない。引きこもりには、不登校も含むが、20歳以上の大人が多い。引きこもりの人には「がんばれ」とは言わない。また、引きこもりの人は「我慢をしない」で欲しい。

引きこもり当事者には「一杯話させる」「一所懸命やらせない」「夢を壊さない」「夢を作ってあげる」とすると動き出す。元気になる(時間がかかる)。「親が成長すると子供が復活する」「親が殻を破る」「引きこもりは周りに合わせる」「何歳になっても傷つくと思春期に帰る」「自分作りが出来ていない人は企業でもだめになる」「両親が大人になろう」「一人一人が自立すると子供も自立する」「カウンセリングを勉強して経済的自立すると自分が子供であったことがわかった」「喧嘩は強い人のところではしない」「家庭内での会話は快話する」「生育暦の中で自分作りをしていく」

#### **いつでも眠れるときに眠る**

昼夜逆転していることでも、眠れることが大事です。睡眠が少ないと症状が悪くなる。

#### **現在だけを考える**

トラウマが一段落した後、過去、未来を少なくして「現在」のお話を多くする。

#### **子供の気持ちを考えて接する**

「うん」「うーん」で話ができれば、子供から話をしてくる。子供に言葉を復活させると暴力はなくなる。

#### **皆さんに勉強して欲しい**

「親の無条件肯定」「生きていて良かった」と心の中で思って下さい。子供がいて良かった。自分の言葉を喋って下さい。本人が対人恐怖症の場合は、家に人を入れて下さい。親の会の人を家に呼ぶ(来週はさんの家というように巡回する)と対人恐怖症は良くなる。

家の訪問は医師と看護師の二人です。本人の承諾なしでも良い。会わなくても障子越しの対応でも可能です。

どんどん人に会わせて下さい。最後まで知恵を出してください、子供は必ず動きます。

#### **国の支援**

居場所には国の支援が必要です。

### 質疑 2件

#### Q1 就労支援の困難化への対応は

A 障がい者年金や生活保護など、国からもらえるお金はどんどんもらいましょう

#### Q2 当事者の高齢化には

A 今後、当事者の中から親がなくなれば子供は動ける。

ニーチェ（哲学者）の言葉に「笑ってダンスをする人は自分の人生を楽しくする」というのがある。親が子供を回復させる信念を持つ。自信をもって発信して欲しい。どんどん声をかけて欲しい。

「困った子供ほどすばらしい」の本の中に「会話は快話」の50項目の事例を載せているので、ぜひお読み下さい。

## （5）講演会〔二部〕

### 演題：国のひきこもり支援について

講師：徳島大学大学院准教授 境 泉洋氏

#### 1 国におけるひきこもり研究

疫学調査には「厚労省」「内閣府」の二つがある。厚労省は「心の健康についての疫学調査に関する研究」（全国推計約26万人）、内閣府は「若者の意識に関する調査」（狭義のひきこもり23.6万人）となっており、ほぼ同じくらいの数字となっている。

#### （1）研究班

「地域精神保健活動のあり方に関する研究」伊藤順一郎氏

2000年～2002年度 最初のガイドライン 行政の基礎となる

「思春期、青年期の「ひきこもり」に関する精神医学的研究」

井上洋一氏

2005年～2006年度 精神疾患への所見、

「ひきこもり評価・支援に関するガイドライン」斎藤 万比古氏

2007年～2009年度 薬物療法のメリット、発達障がい、150人診断で特定不可1人、新たなひきこもり支援の指針

真実を受け止めながら対応を考える。発達障がいと言われた当事者を守

るのは親しかいない。

(2) 国の予算

「引きこもりに関する施策」  
(平成23年度) 相当額が認められた

(3) 引きこもり地域支援センター

社会生活できるよう相談、支援、  
医療を受けられるように助ける、  
生活環境を改善する、知識技能を助ける、  
援助する。



(4) 子供若者総合支援センター

現在日本人40人に1人が精神疾患で受診している。

3分診療は、話を聴くより薬を出すほうがいいという考えである。  
ただ、心の健康は、マンパワーが中心であるため、診療報酬制度はこの部分  
が難点となっている。

「心の健康政策会議」には、100人のうち4分の1が当事者又は家族で  
ある。前奥山KHJ代表も出席され、意見を述べておられた。

「権利差別の禁止」「サービスの偏り」「予防早期発見早期対応」「家族介  
護」「精神療養者の周りの人の接し方」「ストレス、慢性疾患再発につな  
がる家族介護を支える」「学校教育の中心に心の健康を入れる」「今実際おこ  
なわれている支援」「政策会議の後押しが必要～これは親の会の役目か」

## 2 家族支援の必要性

(1) ひきこもりと家族関係

引きこもりの前兆、情緒的交流、SOSのサインが出せない、  
大事な話が出来なくなる(そっとしておく)

回復するときは苦楽を共にする、苦しまなければ前に進めない。  
自信のある子になる、どうすれば「楽々」になるか、一歩目が楽なもの。

(2) ひきこもり家族教室

**家族が元気であること。**

親が悪いのではない、本人が変わるのは難しいので親が変わるしか  
ない。1回2時間、8回のプログラムで学んでもらう。

家族に元気になってもらう。子供との生活苦しい。心が萎縮してい  
る。ちょっとしたことで爆発する。心にゆとりが無い。心が硬くなって  
いるので心のスペースを広くする。

**家族関係を改善する**

コミュニケーションは「無条件 肯定関心」とする。

子供との話では、「それ、いいね」と回答すれば、話が続く。  
**子供に必要な支援を提供すること。**

まず、現実を見よ、「ああ、いいね」 話が出来ることが大事である。いきなり現実から入らない。自分自身にゆとりをもってコミュニケーションのとり方を練習する。実践しかない。ふーと頭に浮かぶには、一つ一つ実践を増やしていく以外に無い。

国のひきこもり支援は、どんどん増えている。うまく使うことです。行政はプロを育てられない組織なので、10年の経験がある親の会が教えてあげる。ひきこもり地域支援センターには期待せず、優しく育てていく。ともに作ってってもらいたい。

以上

#### 【7月 居場所活動予定】

内 容	日	曜日	時 間	担 当
第3回運営委員会	2日	土	13:30~	川井
個人カウンセリング(松田先生)	9日	土	9:00~	川井
たんぼぼの風企画 見学 ・実習 持物:カッターナイフ・裁ちばさみ・さしなど 関心のある方は、お電話ください	14日	木	9:00~ さぬき市末1295 (現地集合)	川井
ポパイの会 パソコン教室	17日	日	13:30~	森下

#### 次回【110回 月例会予定】

日 時	2011年8月28日(日) 13:00~受付 13:30~16:30
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階 研修室
内 容	ひきこもり地域支援センターの役割と利用について(仮題) 香川県精神保健福祉センター (保健師 藤田順子氏) 予定 親の学習会(予定)
担 当 G	Bグループ

#### 【四国ブロック会議】(KHJ 香川・KHJ 徳島・KHJ 高知・KHJ 愛媛)

日 時	2011年7月3日(日) 13:30~17:00
場 所	居場所 高松市今里町 参加人数:香川3名・徳島1名・高知3名・愛媛3名 ・全国支部長会議の議案検討 ・本部への提言 ・各支部の活動報告他





### 【第3回全国支部長会議】

日 時	2011年7月23(土)・24日(日) 13:30~17:00 9:00~12:00
場 所	サンヒルズ三河湾 愛知県蒲郡市
内 容	・親の会の方向性について・本部の役割・支部の役割・支部長会議の役割他 ・研修 「ひきこもりは人材の宝庫」(講師:中垣内 正和)他

### 【おしらせ】

内 容	開催日時	開催場所
<b>ひきこもり親の集い</b> ・「子どもを孤立させないために家族ができること」 ・グループミーティング 助言者:ポレポレ農園代表 松田 勝	7月13日(水) 13時30分~ 15時30分	香川県三豊合同庁舎 会議室 (西讃保健福祉事務所) 問い合わせ・申し込み先 保健対策課 精神保健担当 0875 - 25 - 2052
<b>職場体験</b> NPO 法人サンライン ・レオマの森 ホテルのベッドメイク 清掃など 紹介者(さぬき若者サポステ 鷲見所長)	平日 見学のみも可	丸亀市城西町2丁目4-11 201号(事務所) 問い合わせ先:森代表(平日) 0877 - 86 - 5613

3.11の東日本大震災で被災された方々への会場での募金にご協力有難うございました。募金2万2千円は、本部よりまとめて被災地支部に届けられる予定です。